

異常高温・高飽差緊急情報(第2号)

令和5年9月1日
新潟県農林水産部

8月30、31日に異常高温と強い乾燥が県内で観測されました。収穫直前の稲では、胴割粒発生の危険性が高まっています。

籾黄化率が80%以上のコシヒカリでは、できる限り速やかに収穫してください。

〔気象状況と見込み〕

- ◎ 8月30、31日に異常高温と強い乾燥が発生し、コシヒカリの胴割粒発生の危険水準 9 g/m^3 を超える日平均飽差^{注)} が県内で観測されました(次頁参照)。
- ◎ 9月6日頃にかけて最高気温 35°C 以上の猛暑日となる見込みがあり、台風の接近程度によっては、更なる高温も懸念されます。

注) 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きいことを示す。胴割粒が増加する日平均飽差の基準はコシヒカリ 9 g/m^3 以上

〔当面の管理対策〕

- ◎ 高温登熟年では、胴割粒が発生しやすく、さらに収穫直前、籾水分が22%未満の時期に強い乾燥に遭遇すると胴割粒が急増します。
- ◎ 籾を確認し、黄化率80%以上のコシヒカリでは、今回の強い乾燥に遭遇しており、胴割粒発生の危険性が高いので、できる限り速やかに収穫してください。
- ◎ 出穂期後積算気温が 800°C となった頃から県の飽差情報(次頁参照)を確認し、強い乾燥が観測された場合は、籾黄化率75~80%(出穂期後積算気温 900°C)をめやすとし、通常より早めに収穫を始め、刈遅れにならないよう注意してください。
- ◎ 収穫時の籾水分が低い場合は、日中の加温乾燥は避け、常温で通風乾燥を行いましょう。点火は夜間等に気温が下がってから、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低めに設定して丁寧に乾燥しましょう。
- ◎ 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合はそれを活用しましょう。

暑い日が続きますので、熱中症と農作業事故に注意しましょう。

参考資料

県内アメダス観測地点(湿度を測定する7地点)における日平均飽差※の実測値
(令和5年8月30日～31日分、単位 g/m^3)

地点名		村上	新潟	新津	柏崎	大潟	高田	相川
実測値	8/30 (水)	5.6	9.0 ●	6.9	6.5	6.3	6.2	9.6 ●
	8/31 (木)	9.1 ●	12.1 ●	9.8 ●	7.0	9.9 ●	10.0 ●	12.6 ●

数値下の記号について $9.0 g/m^3$ 以上：●

この値は、対象日の温度・湿度の平均値から日平均飽差を計算した実測値です。下記 URL ホームページにも掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r5inasaku.html>



令和5年度フェーン・異常高温緊急情報

[「フェーン・異常高温緊急情報第4号」を発出しました\(8月29日\)。](#)

飽差情報の提供

県内アメダス7地点における日平均飽差の値を掲載しています。(平日毎日午前中に更新)
この値が大きくなり、こしいぶき、コシヒカリ、新之助について玄米品質低下が懸念される場合は、「異常高温・高飽差緊急情報」により早期収穫と丁寧な乾燥調整を呼びかけます。
収穫前の稲水分が低い時期に高い日平均飽差に遭遇すると、胴割粒発生による品質低下を招く場合があります。収穫作業計画の参考にしてください。

[「異常高温・高飽差緊急情報第1号」を発出しました\(8月29日\)](#) (670KB)
[報道発表ページはこちら](#)

令和5年8月30日(水曜日)
県内7地点の日平均飽差(立方メートルあたりグラム)

村上	新潟	新津	柏崎	大潟	高田	相川
5.6	9.0	6.9	6.5	6.3	6.2	9.6

[令和5年の日平均飽差一覧\(8月30日まで\)](#) (PDFファイル/51KB)

日平均飽差の値の利用については、次のリンク先情報を参考にしてください。

「フェーン現象や乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす」
(農業総合研究所作物研究センターの研究成果情報)
[研究成果情報の詳細説明ページ](#) [令和4年度研究成果情報PDF](#)

[【参考資料】令和4年の日平均飽差](#) (PDFファイル/64KB)

前日までの日平均飽差を掲載しています(平日毎日更新中)

※ 日平均飽差 (g/m^3) とは：
 水稻成熟期における飽差の大きさは、胴割粒の発生しやすさを表します。籾水分が22%未満の時にコシヒカリでは $9 g/m^3$ 以上の日平均飽差に遭遇すると、胴割粒が増加する傾向があります。

科学的には、1立方メートルの空気中にと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、濁きやすい状態であることを示します。

異常乾燥への対応(フェーンや乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす)については、ホームページ及び「水稻の生育状況と今後の管理対策(令和5年8月21日発行)」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/375083.pdf>



登熟不良の発生と損害評価

水稲は、出穂期以降20日間程度の気温が高温等で推移すると、外見上判断できない白未熟粒等が発生する可能性が高くなります。

現在加入されている半相殺、全相殺方式または地域インデックス方式は収量補償であるため、品質または等級の低下では、通常、共済金の支払い対象となりません。

しかし、当組合管内で白未熟粒等が広範囲に発生し、規格外米が相当割合発生した場合は、当組合の申請及び国の認定により、特例的に白未熟粒等の発生量を共済減収量に加味して、損害評価（特例措置）を実施できる場合があります。

被害申告される場合の注意点

玄米の状況などを確認いただき、登熟不良などの高温障害により、白未熟粒等が半分程度以上発生している場合は、収穫される前に被害申告を行ってください。

なお、被害申告の方法は、送付された「水稲損害評価のお知らせ」をご確認ください。

共済金支払対象にならない場合があります

白未熟粒等の被害申告をいただいても、今後の生育・被害状況等により特例措置が実施されない場合や、特例措置が実施されても一定の割合を超える減収とならない場合は、共済金の支払対象となりませんので、あらかじめご了承ください。

【お問合せ先】 お近くのNOSA Iまでご連絡ください。